

「第2回南相馬市スマートグリッド標準化検討委員会」概要

日 時 平成 29 年 9 月 28 日（木）13：30～15:00
場 所 南相馬市役所 本庁舎 3 階 第一会議室
出席者 南相馬市スマートグリッド標準化検討委員会委員（8 名）

【事務局】

復興企画部部長、新エネルギー推進課

1．開会あいさつ（復興企画部長） 略

2．委員長挨拶（委員長） 略

3．議事

（1）設置効果について

蓄電池での制御の設定値の見直しについて

委員 A：蓄電池でのピークカットについて、この制御方法についてはある程度事前に設定して同じ設定で制御しているのか、状況に応じて変えているのか、教えてほしい。

事務局：現在、目標値については暫定で設定しており、設置時の目標値をもとに出ている値である。今後、各施設の稼働状況等に応じて適正な目標値を設定することで、さらに削減できると考えている。

（2）運用について

システム導入による効果の分析や今後の省エネの取組みについて

委員長：実際に学校や市役所で業務を行っている身として、当然省エネは意識していると思うが、他に何か省エネに関する取組みを考えているか。

生活環境課長代：省エネ対策については、震災以前は ISO の取組みを積極的に行い、推進してきた経緯はある。しかし、震災後は復興に力を入れてきた。現在は復興の期間から通常の期間に移行していくにつれて、省エネの意識や取組みに重きを戻して推進していく必要があると考えている。

スマートグリッド事業の「見える化」のデータを活用すれば、省エネの取組みもできることが増えてくる。

委員長：ピークカットの設定については、職員や生徒の負担にならず、最も省エネ効果のある値に設定を見直す必要があると考えるが。

委員 B：正しい設定値に見直すために、まず電力消費量の分析を正確に行う必要がある。分析では、消費量に影響を与える原因を把握したうえでデータの分析を行う必要が

ある。設定変更の前に、まずは正しくデータを分析することが今すべきことだと考えている。

委員長： 分析について、事務局としてはどのように進めていく予定なのか。

事務局： 市役所本庁舎のような、特に電力消費量が多く、職員の協力が得やすそうな場所から始めようと考えている。その結果を検証したうえで、同じ方法で他の施設もという風に段階を踏んだ検証を考えている。

教育総務課長： 小中学校の電力使用量が増えている要因として、学校の体育館を市民団体に夜開放しており、その利用数が、震災後の生活が安定してきたことによって、増えているという現状がある。その夜間の照明利用の増加が、電力消費量の増加の一因になっている。

法人を対象としたシステムの普及・啓発について

委員長： 本事業の広報については、ホームページへの掲載等、現状で進められている。これはしっかり維持し、より充実してほしい。

また、事業者への拡大については、市内でのエネルギー多消費の事業者というのは、どれくらいの規模まであるか。また、そのような事業体に本格導入するには、相当な設備になると思うが、何か良いアイディアはあるか。

また、市役所や小学校などで電力の見える化ができるようになったことに対し、市民の反応はどうなっているか。

事務局： 公共施設での電力の見える化について、市民全体には根づいていないのが現状。市の方で、家庭用の太陽光やH E M S , 蓄電池等に補助を出しているので、それに関わる方は関心を持っているが、自宅に設備を導入している方としていない方で、関心は二極化してしまっているという現状がある。

市内の事業者では、消費電力が増えており、大口向けの電気契約の割合が大きくなっている。ただ、このような規模が大きい事業所では、自分で太陽光発電システムを導入しており、元々省エネ活動をしている。今後はこれまで省エネに取り組みなかった小規模の事業者を対象に補助を行い、法人への普及を図りたい。